第二十回記念　玄和全国競書大会優秀作品

市川　清子

審査所感

二〇〇〇年からスタートした玄和全国競書大会も、今年二十回記念展を迎えることができました。これもひとえにご出品いただきました支部・支局をはじめとする「玄和」をご購読いただいております皆様のあたたかいご理解とご協力のたまものと深く感謝申し上げます。また、「玄和」購読者以外の方からも多数のご出品を賜りましたこと、併せて御礼申し上げます。

審査会は十一月二十三日勤労感謝の日に行われました。

午前九時から一次・二次審査、昼食をはさんで最終審査が行われました。

学生部低学年は子供らしい元気な作品が多く名前もしっかりと書いた作品は高得点が出ていました。高学年になると墨をたっぷりとどっしりとだけでは得点は出ず、文字のバランス、線の美しさなどが要求されます。文字数も二文字から五文字で漢字の中に平仮名が入った時のバランスや学年・名前も作品の一部として書かれた作品は印象深いものでした。中学生は楷書・行書・臨書と幅広く、小さい頃から習っていると思われる書写の基本ができている作品が数多く見られました。高校生は臨書作品が多く古典を強く感じさせる

── 玄和書道会賞 ──

野井　忠義（高一）

菅井　花梨

津谷　純那（小三）

川本　凛緒（小六）

鈴江栞乃子（中二）

ものは日頃の練習量が見えるようでした。また創作作品は大人顔負けの意慾溢れるものもあり、これからに期待したいと思います。

一般部半紙はかな作品も多く墨色や用紙にも配慮され、臨書に於いても濃墨で作風を表現されたり研究のあとが見られました。

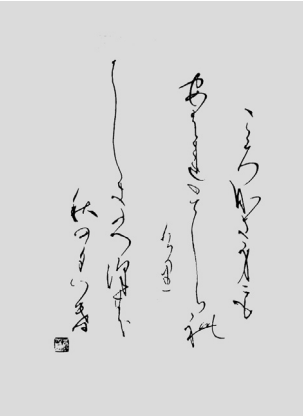
条幅の部は漢字・かな・調和体・臨書とバラエティに富んだ作品で、入賞作品を見ますと全体の構成が良く、見せ場として盛り上げるところ有り、おだやかに流れるところ有りと、静と動をバランス良く配置し、線も潤渇、太細で奥行きを持たせる工夫が見うけられました。どの作品も完成度が高く甲乙をつける為に同点決戦が何度もあり、審査のむずかしさを痛感しました。

毎年思う事ですが、達者な筆使いなのに点に結びつかない…。題材選びは楽しくもあり、難しいところでもあります。内容が素敵でも作品として成立しないものも数多くあります。書きにくい時は、選文についても一考されると良いと思います。

二十一回展に更なる好作品を期待しています。

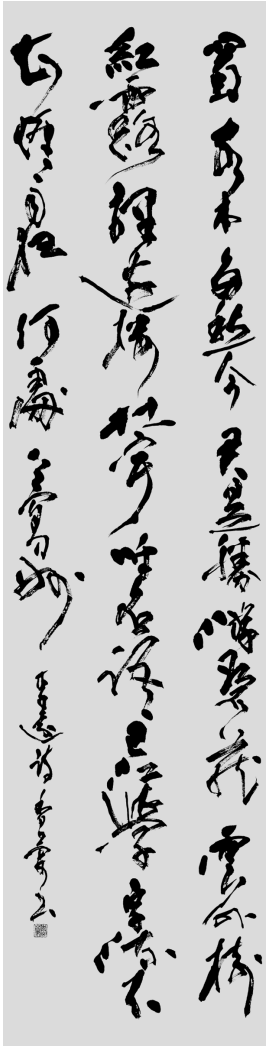
第二十回記念　玄和全国競書大会
審査委員長　明石　幸子

春　浦　賞



奥田　楓華

松本　玉蘭



石原　香蘭

鈴江　紬（高一）

崔　鉉斌（小二）

戸沢　千智（小五）

重光　絆花（中三）

―― 玄和書道会会長賞 ――

佐藤　志乃

田尾　邦子

北原加枝子

金田莉里花（高二）

出井　絢菜（小一）

中山　結衣（小四）

公野　珠月（中一）